



## 平成28年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月14日  
上場取引所 東 福

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社  
コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長  
定時株主総会開催予定日 平成29年3月28日  
有価証券報告書提出予定日 平成29年3月28日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 江里口俊文  
(氏名) 寺田尚文  
配当支払開始予定日

TEL 0968-66-2111  
平成29年3月29日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年12月期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期	7,061	△11.1	257	△48.4	230	△50.9	142	△49.3
27年12月期	7,941	5.6	498	105.2	470	75.0	280	63.7

(注) 包括利益 28年12月期 130百万円 (△58.6%) 27年12月期 315百万円 (59.2%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
28年12月期	13.77	—	1.3	1.1	3.7
27年12月期	27.14	—	2.7	2.2	6.3

(参考) 持分法投資損益 28年12月期 ー百万円 27年12月期 ー百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年12月期	21,738	10,710	49.3	1,036.12
27年12月期	21,816	10,693	49.0	1,034.46

(参考) 自己資本 28年12月期 10,710百万円 27年12月期 10,693百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
28年12月期	383	△445	67	288
27年12月期	901	△409	△482	282

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
27年12月期	—	3.00	—	8.00	11.00	113	40.5	1.1
28年12月期	—	3.00	—	5.00	8.00	82	58.1	0.8
29年12月期(予想)	—	4.00	—	5.00	9.00		51.7	

### 3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,600	7.6	320	24.3	290	25.8	180	26.4	17.41

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

28年12月期	10,346,683 株	27年12月期	10,346,683 株
28年12月期	9,253 株	27年12月期	9,253 株
28年12月期	10,337,430 株	27年12月期	10,337,481 株

(参考)個別業績の概要

平成28年12月期の個別業績(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期	4,184	△15.3	129	△49.0	148	△39.0	95	△22.1
27年12月期	4,939	7.3	254	72.6	243	22.2	122	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期	9.23	—
27年12月期	11.85	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
28年12月期	20,320		11,448	56.3			1,107.50	
27年12月期	20,786		11,478	55.2			1,110.38	

(参考) 自己資本 28年12月期 11,448百万円 27年12月期 11,478百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、[添付資料]6ページ「1. 経営成績に関する分析 2) 次期の見通し」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	8
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	8
2. 企業集団の状況 .....	9
3. 経営方針 .....	11
(1) 会社の経営の基本方針 .....	11
(2) 目標とする経営指標 .....	11
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	11
(4) 会社の対処すべき課題 .....	11
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	11
5. 連結財務諸表 .....	12
(1) 連結貸借対照表 .....	12
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	14
連結損益計算書 .....	14
連結包括利益計算書 .....	15
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	16
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	18
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	19
(継続企業の前提に関する注記) .....	19
(会計方針の変更) .....	19
(セグメント情報等) .....	19
(1株当たり情報) .....	20
(重要な後発事象) .....	20
6. その他 .....	21

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### 1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、第1四半期は好調に推移いたしましたものの、4月に発生した熊本地震の影響により、直後のゴールデンウィーク期間を中心として、九州の遊園地、ゴルフ場、ホテルの利用者数が大きく減少し、北海道の遊園地も8月の度重なる台風の影響により利用者数が減少いたしました。その後、集客に向けた積極的な取り組みにより、次第に客足は戻り、加えて、様々な経費の見直しによる利益の拡大に努めましたが、当社グループの業績は、大型連休のシルバーウィークを背景として好調でありました前期実績を下回る結果となりました。

当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,061,241千円（前期比880,710千円減）、営業利益257,405千円（前期比241,150千円減）、経常利益230,598千円（前期比239,422千円減）、親会社株主に帰属する当期純利益は142,395千円（前期比138,202千円減）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	7,061,241	7,941,951	△880,710	△11.1
営業利益	257,405	498,555	△241,150	△48.4
経常利益	230,598	470,021	△239,422	△50.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	142,395	280,597	△138,202	△49.3

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

#### (遊園地事業)

開園50周年を迎えた九州の『グリーンランド』におきましては、季節毎のイベント開催に加え、50周年を飾る様々な取り組みを行いました。

更に、新規アトラクション導入やイルミネーション等施設の拡充ならびにお客様サービスの改善に取り組み、これまで春催事期間のみ特別料金となっておりました入園料金体系を見直し、通年で同一の入園料金へと改定いたしました。

【春催事】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ONE PIECE メモリアルログ新世界激闘編！！ in熊本グリーンランド</li> <li>・仮面ライダーゴースト 魂バトルステージ</li> <li>・開園50周年記念「HANABIフェスティバル」</li> </ul>
【夏催事】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出現！妖怪ウォッチランド～キミも妖怪と友だちになろう！～</li> <li>・仮面ライダーゴースト スペシャルショー</li> <li>・仮面ライダーゴースト 出演俳優トークショー</li> <li>・さのよいファイヤーカーニバル2016～がんばろう熊本</li> <li>・サマーナイト打上花火ショー2016</li> </ul>
【秋催事】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジ☆グリーンランド～2016秋～</li> <li>・タマホームスペシャル2016 第13回「花火物語」</li> <li>・NORI NORI ハロウィン</li> <li>・開園50周年記念コンサート 「50th Anniversary SPECIAL MUSIC FES.」</li> </ul>
【冬催事】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016-2017ウィンターイルミネーション「光のファンタジー」</li> <li>・グリーンランドカウントダウンパーティー2017～50th Anniversary～</li> </ul>

「ONE PIECE メモリアルログ 新世界激闘編！！ in熊本グリーンランド」におきましては、日本初展示となる立体造形を始め、園内飲食店舗でのコラボメニューの販売やデジタルラリー等実施により、遊園地全体を使い、「ONE PIECE」の世界観を演出いたしました。

また、「仮面ライダーゴースト 魂バトルステージ」では、日本最大級の屋外ステージ「グリーンスタジアム」において、約250インチの巨大LEDスクリーン映像による演出を加え、大迫力のアクションショーを開催いた

しました。更に、絶好のポジションでショーを観覧できる座席エリアを新設し、特別観覧席付前売券を販売する等、付加価値を高め、収益拡大に努めました。

その他、休日を中心として、テレビ等で活躍する芸能人のライブショーや人気キャラクターショーを実施し、七夕、ハロウィン、クリスマス等、季節毎のテーマに沿った、多彩なイベントや演出にも取り組みました。

イルミネーションイベント「光のファンタジー」においては、日本最長の映像と光のインタラクティブロード「マジカルトリックフロア」をはじめ、園内各所に様々な光の演出を誕生させました。また、これまでゴールデンウィーク、8月ならびに12月下旬を中心としておりました夜間営業開催期間を拡大し、11月より長期展開することで、冬季の集客力強化を図りました。

更に、開園50周年記念イベントとして、春の花火大会を特別開催し、7月には、開園50周年にちなみ1歳から50歳までのゲストをお招きして、テープカット等の記念式典を開催したほか、恒例となったファイヤーカーニバルの打上発数を増やし、秋には人気アーティストらによるスペシャルコンサートを開催いたしました。加えて、親子3世代でお得に遊べる「じいじ・ばあばとお孫さん仲良しプラン」ならびに1年間利用可能な入園券とアトラクションフリーパスがセットになった「年間フリーパス」の特別販売を行い、更なる集客の拡大に努めました。

施設面では、新規アトラクション「ブテラノドン」、「エキサイトグランプリ」、「ドキドキおばけ屋敷どろんどろん病院」、「ボールシュート」を導入し、小さいお子様からおじいちゃんおばあちゃんまでの3世代ファミリーで楽しめる施設づくりに注力いたしました。また、「ミルクィウエイ・織姫」にBGMシステム搭載の新型車両を導入し、これまでにない新感覚のジェットコースターへとリニューアルいたしました。

プール施設「ウォーターパーク」においては、ファミリーに人気のバルーンアトラクションの入替えを行い、ロッカー及び更衣室のリニューアルを実施して、顧客満足度の向上を図り、多くのお客様で賑わいました。

アトラクション以外におきましても、花火打上を見ながらくつろげるウッドデッキ「グリーンテラス」の新設等にも取り組んでまいりました。

その他、落し物情報の共有システムや海外のお客様に向けた自動翻訳機能を利用してサービス向上を図りました。

なお、熊本地震の発生を受け、当社ならではの復興支援策として、「がんばろう熊本！グリーンランドご招待デー」と題し、被災地域より、約600名の方々を九州の『グリーンランド』に招待いたしました。

このような、様々なイベントの開催や施設の拡充に取り組みましたが、熊本地震の影響によるゴールデンウィークの個人客の出控えや学校団体客の大幅な減少もあり、利用者数は、前期比140,814人減少の714,262人となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春に「スーパーモンキー&スーパードッグ 大サーカス」や、リニューアルした北海道最大規模の屋外ステージでのキャラクターショーを開催し、夏には子供たちに大人気の「妖怪ウォッチランド」を展開するほか、休日毎に多彩なキャラクターショーを開催することで、ファミリー層を中心に集客を図りました。

また、岩見沢市の夏を代表するビッグイベントへと成長したコンサートイベント「JOIN ALIVE (ジョインライブ) 2016」は、2日間の日程で過去最高の動員数となり、秋には若者層を中心に人気の脱出ゲーム「夜の魔王城からの脱出」を初開催し、好評を博しました。

その他、人気のジェットコースター「GO-ON」のリニューアルを行い、施設の魅力拡大を図りました。

以上のように、集客に向けた様々な取り組みを行いましたが、ゴールデンウィークの悪天候や8月の度重なる台風の影響により、利用者数は減少いたしました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、特に集客の山場となる1月が天候に恵まれ、団体客を中心に利用者数を伸ばしました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前期比25,001人減少の229,975人となりました。

以上の結果、利用者数は前期比165,815人減少の944,237人となり、売上高は前期比670,066千円減少の3,557,942千円、セグメント利益につきましては前期比157,307百万円減少の365,243千円となりました。

#### (ゴルフ事業)

3ゴルフ場におきましては、樹木の剪定・伐採をはじめ、グリーンやバンカー等のコース整備の徹底は勿論のこと、クラブハウス内外やトイレ等各種施設の拡充による利便性向上に努め、顧客獲得を図りました。更に、3ゴルフ場のPRの一環として開催しております、プロゴルファーを目指した元研修生スタッフによるチャンピオン大会につきましても、今回は、韓国ならびに北海道の提携先ゴルフ場を会場として開催することで、更なる話題性喚起を図りました。

また、韓国を中心とした海外ゴルファーにつきましては、万全の受入体制(3ゴルフ場72ホールのスケールメリット、宿泊拠点となるホテル、送迎体制の完備、外国人スタッフによる対応等)に加え、海外ゴルフ場との相互施設利用提携の強みを活かして集客に努めましたが、熊本地震発生直後の出控えによる落ち込みが影響し、韓国での会員権販売も低調に推移したため、前期実績を下回る結果となりました。

開場から50周年を迎えました『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、従来のナビゲーションシステムを刷新し、合わせて、プレー料金の改定を行いました。これまでは、ホワイトコース9ホール及びグリーンコース9ホールでのみナビゲーションシステムの利用が可能でありましたが、この刷新により、オレンジコースを含む全36ホールで利用いただけるようになりました。更に、プレーヤーが各ホールでのスコアをタッチパネルで入力し、同じコンペ参加者の順位表をリアルタイムに表示する機能を加えたことで、多くのプレーヤーからは、これまでにない楽しみ方が出来ると大変好評となりました。

また、秋には、開場50周年記念ゴルフコンペならびに記念式典を盛大に開催し、幅広い集客と合わせて、新ナビゲーションシステムの魅力発信に努めました。

施設面では、エアーガンのリニューアルやカート道路の整備等、お客様目線での各種改善に積極的に取り組むことで、顧客満足度向上に努めました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』におきましては、グリーンへの拡張・改良工事や樹木の剪定・伐採によるコースの改造とともに景観向上にも努め、各コースの更なる魅力アップを図りました。また、レストラン周辺にオーニング(テント)を新設したほか、最新の衣類乾燥器を導入する等、雨天時におけるプレーヤーの満足度向上にも努め、リピーターの拡大を図りました。

以上の取り組みを行いました。熊本地震や天候不順による利用者数の減少の影響が大きく、3ゴルフ場を合わせた利用者数は前期比8,107人減少の133,554人となり、売上高は前期比85,875千円減少の995,944千円、セグメント利益につきましては、前期比40,438千円減少の26,743千円となりました。

#### (ホテル事業)

九州の『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地とゴルフ場に隣接するオフィシャルホテルとしてのメリットを活かした商品造成に努める一方、地元へ愛されるホテルとして、レストランや宴会での利用客の獲得にも注力いたしました。

『ホテルブランカ』におきましては、客室(和室)、宴会場、トイレ等の改装を行い、お客様の利用満足度向上を図りました。また、ホームページを大幅にリニューアルし、館内施設案内や各種料金プランをお客様に分かりやすく、スピーディに提供することに努めました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、熊本県の人気ゆるキャラ「くまモン」とコラボレーションした「ゆるっくまルーム」のリニューアルのほか、3世代ファミリーをターゲットとした「孫タビ」プランの商品造成等、新たな顧客層の獲得に注力いたしました。

施設面におきましては、大宴会場「有明の間」の大規模改装を行うことで、婚礼をはじめとする大型宴会の獲得に努め、また、中宴会場「虹の間」につきましても、ウッドデッキを新設する等のリニューアルを行いました。

その他、チャペルガーデンの景観整備を行ったほか、コロッセオ広場を中心としてイルミネーション演出を拡大・強化し、遊園地の大観覧車のライトアップとともに、お客様に大変喜ばれました。

また、日本料理「小岱」の副料理長が、第36回日本料理全国大会において、「国土交通大臣賞」を受賞したことで、同じく全国規模のコンクールでの受賞歴を持つ同店の料理長とともに、付加価値の高い日本料理店としてPRを行い、顧客拡大に努めました。

その他、地震による風評の影響もあり、一時的に予約のキャンセルが見られましたものの、インバウンド客も次第に戻り、加えて、「九州ふっこう割」を利用されるお客様のニーズを的確に捉え、集客促進を図ることで、宿泊客数は堅調に推移いたしました。また、婚礼をはじめとする宴会部門ならびに料飲部門の落ち込みをカバーするには至りませんでした。

この結果、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前期比3,617人増加の74,348人となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、客室(和室)の改装を行うほか、ウィークエンドバイキング等、評判の良い各種プラン展開により、顧客の獲得に努めました。

『北村温泉ホテル』におきましては、客室の改装や空気清浄機の導入による施設の魅力向上に努めました。また、お得な回数券セット販売をはじめ、多様な居酒屋メニュー展開やビンゴ大会等各種イベントの開催により、リピーター増加及び売上拡大を図りました。

この結果、『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉』の宿泊者は前期比1,625人増加の29,731人となりました。

以上の結果、宿泊者数は前期比5,242人増加の104,079人となり、売上高は前期比151,052千円減少の2,121,865千円、セグメント利益は前期比48,294千円減少の56,512千円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、社有地ならびに賃貸建物の整備に取り組み、賃貸料収入を中心に堅調に推移いたしました。売上高は前期比1,396千円減少の149,161千円となり、セグメント利益につきましては、前期比768千円増加の93,469千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、コールサンド及びポゾテックなどの建設資材販売が好調に推移し、売上高は前期比27,680千円増加の236,326千円、セグメント利益は前期比6,777千円増加の26,804千円となりました。

(注) セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記すべてのセグメント利益合計568,773千円より、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む311,368千円を差し引いた257,405千円が当連結会計年度の営業利益となります。

## 2)次期の見通し

当社グループを取り巻く環境は、多様化する顧客ニーズに加え、気象環境や経済環境など様々な変化が続くものと予測されます。そのような状況の中、当社グループにおきましては、これまで培った経験やノウハウにこだわることなく、常に新しい変化に取り組むことで、多くのお客様に、期待される以上の喜び、そして感動を与えられるよう努めてまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

## (遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、前年の50周年という節目の年を終え、次のメモリアルイヤーに向けての新たな一歩を踏み出す意味を込めた「A NEW STEP」という合言葉のもと、様々な取り組みを行ってまいります。

まず、1月におきましては、冬休み期間と各週末等に夜間営業を実施し、イルミネーションイベント「光のファンタジー」を開催するほか、いつ来園いただいても楽しめる、年中無休の営業スタイルを積極的にPRして、冬季の集客を図っております。

春のイベントにつきましては、3月18日(土)から5月7日(日)までの51日間、メインイベントとして「ドラゴンボール超(スーパー) 修業チャレンジ! ~悟空を目指して強くなろう!~」を開催いたします。このイベントは、世界的に人気を博した「ドラゴンボール」シリーズの最新作アニメ「ドラゴンボール超(スーパー)」をテーマとした体験型アトラクションとなります。合わせて、カメハウスや悟空の立像等により世界観を再現し、イベント限定グッズやコラボメニューの販売も行い、幅広いファン層の獲得を図ります。

また、3月18日(土)から5月28日(日)の土日祝日には、「仮面ライダーエグゼイド バトルステージ」と題し、子供たちに絶大な人気を誇る「仮面ライダーエグゼイド」を主役として、日本最大級の屋外ステージ「グリーンスタジアム」において、約230インチの巨大LEDスクリーンによる映像演出や特殊効果をふんだんに使用して、思わず息をのむほどの大迫力のアクションショーを開催いたします。合わせて、5,000発の春の花火大会「HANABIフェスティバル」の開催をはじめ、低年齢層向けのキャラクターショーならびに女兒に大人気の「キラキラ☆プリキュアアラモードショー」等、様々なイベントを展開し、春休みからゴールデンウィークを中心に多くの集客を図ります。

また、「仮面ライダーエグゼイド バトルステージ」開催日に利用可能な、絶好のポジションから広大なショーステージを一望できる特別観覧席付前売券の販売を行い、売上の拡大を図ります。

更に、前売入園券については、春催事開催日前日までの販売とすることで入園料単価の増加を図ります。また、各種団体等に対しては、1年間を通じて特別入園券を販売することで集客力強化を図ります。

春以降につきましても、オリジナル性の高い多様なイベントを開催し、お客様に対して、グリーンランドでしか味わえない、ワクワクする体験や感動を提供してまいります。

施設面では、カップルを中心に大人気の占いの館「ルクソールマジック」において、新たに友達判断を追加したシステムを導入しての大規模リニューアルを行い、ターゲット層を広げてまいります。また、空中ブランコ「ウェーブスインガー」に噴水装置を設置し、更に、光の演出を加えることで、日中と夜間で違う体験が出来る、新たなアトラクションへと進化させます。

次に、イルミネーションイベント「光のファンタジー」につきましては、「イルミナード」や「マジカルトリックフロア」に続く目玉スポットを新設するとともに、既存のイルミネーションエリアにおいても演出を増強する等、全体のスケールアップを図ります。更に、夏季に好評を博しております「ウォーターパーク(プール)」におきましても、新しい遊びの仕掛けを導入し、夏季集客策の柱として、積極的に営業展開いたします。

その他、「年間フリーパス」につきましても、お客様からの好評の声にお応えし、特別販売期間を延長し、リピーターの拡大に努めてまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、この春、ファミリー層からの支持が高い「ポリショイサーカス」を、4月22日(土)から6月25日(日)にかけてロングランで公演を行い、集客の山場となるゴールデンウィークには、子供たちに人気のキャラクターショー等も合わせて開催し、集客に努めてまいります。

また、新規アトラクションとなるカード迷路「ぐるり森大冒険」を導入し、迷路遊び、カードのコレクション、そしてカードバトルといった、多彩な楽しみ方を提供し、多くの集客を図ります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、学校授業をはじめ、子ども会やスポーツクラブ等の各種団体の誘致に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、コース整備をはじめとする顧客満足度の向上の取り組みを基本として、3ゴルフ場のスケールメリットならびに、パブリックコースとメンバーシップコースのそれぞれの強みと立地を活かした顧客獲得に努めてまいります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』では、好評な最新式のナビゲーションシステムの更なるPR強化に取り組み、各種コンペご利用客の獲得を図ります。また、フェアウェイやガードバンカーの拡張工事等、コース改良にも積極的に取り組み、景観のみならずコース難易度にも変化をつけることで、常連客やビジター客を問わず、様々な年齢層の方々に楽しんでいただけるよう整備を進めてまいります。

また、『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、キャディ付プレーの利点を前面に打ち出して、大型コンペの獲得を図り、また、その継続利用に向けて、絶えずキャディ業務の質の向上に努めてまいります。

加えて、PGAティーチングプロB級資格を保有する当社スタッフを積極的にPRし、個別レッスンや様々な企画を開催する等、新しい顧客の取り込みを図ってまいります。

その他、熊本地震直後に一旦は減少した海外ゴルファーの利用も順調に回復しており、引き続き、外国人スタッフによる万全な受入体制の強化のほか、海外及び国内の提携ゴルフ場との協力関係を最大限に活用し、幅広い集客を図ってまいります。

その他にも、プレーヤー目線に立った施設の改善等に取り組んでまいります。

(ホテル事業)

九州の『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地、ゴルフ場をはじめとするグリーンランドリゾートエリア全体のオフィシャルホテルとしてのメリットを活かしながら、多彩な料飲メニュー展開やターゲットを明確化した商品展開により、顧客の獲得に努めてまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、遊園地とゴルフ場に隣接する強みを背景に好調な宿泊について、予約サイトを更に有効に活用して客室稼働率を高め、収益の拡大を図ります。また、遊園地を見渡しながらの庭園バーベキューや冬の鍋料理メニューにつきましても、お客様同士で話題となるような趣向を凝らすことで、リピーターに加え、新規顧客の取り込みを図ります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、インバウンドの確実な取り込みで平日の稼働率を上げることに努め、ターゲットを絞った宿泊商品として、卒業旅行プランや3世代ファミリープランの販売に加え、プレミアムプラン等の高単価商品の販売にも注力いたします。また、チャペルガーデンやコロッセオ広場等のホテル内外のイルミネーションを更に充実させていくことで、利用客の満足度向上に努めてまいります。

北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地を中心とするリゾートホテルとしての役割のほか、それぞれのホテルの立地や特色を活かした顧客の獲得を図ってまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、リニューアルした客室のPRや3世代プラン・提携ゴルフ場とのゴルフバック販売等により、更なる集客を図ります。また、好評なレストランのランチメニュー改定により集客力を強化し、夕食メニューは和食に注力することで、宿泊客の利用促進を図ります。

『北村温泉ホテル』におきましては、無料送迎バスによる宴会利用促進に努め、会員カードの特典内容を見直し、リピーターの拡大を図ります。

また、北村中央公園・桜づつみ公園とのタイアップイベント等を企画していくことで、集客に努めてまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、遊園地等のリゾートエリアを中心に変化する周辺環境に対応し、継続的に新規テナントの誘致活動に努めてまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、新規事業として火力発電所へのバイオマス燃料投入事業を受託しており、堅調なポゾテック等の建設資材の販売促進にも努め、更なる収益拡大を図ります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい。」というキャッチコピーのもと、全員が一致団結して事業に取り組んでまいりました。これからも、常に新しい変化に挑戦し、その変化の先にある感動を求め、お客様の満足度向上とともに、更なる事業の発展を目指してまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,600百万円(前連結会計年度比+7.6%)、営業利益320百万円(前連結会計年度比+24.3%)、経常利益290百万円(前連結会計年度比+25.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益180百万円(前連結会計年度比+26.4%)を見込んでおります。

なお、業績に大きな影響を及ぼす春休み及びゴールデンウィークの集客状況が天候等の不確定要素に左右されるため、第2四半期累計期間の業績予想は開示しておりません。

## (2) 財政状態に関する分析

### 1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,738,821千円(前連結会計年度比77,856千円減少)となりました。

流動資産は、679,699千円(前連結会計年度比560千円増加)となりました。主な要因はその他で8,616千円減少したものの、受取手形及び売掛金で11,859千円増加したことによるものであります。

固定資産は、21,059,122千円(前連結会計年度比78,417千円減少)となりました。主な要因は機械装置及び運搬器具で14,310千円増加しましたが、建物及び構築物で103,124千円減少したことによるものであります。

流動負債は、3,993,651千円(前連結会計年度比568,272千円減少)となりました。主な要因は短期借入金で292,568千円、未払法人税等で136,758千円、未払金で128,607千円減少したことによるものであります。

固定負債は、7,034,374千円(前連結会計年度比473,261千円増加)となりました。主な要因は長期預り金で98,400千円減少しましたが、長期借入金で591,851千円増加したことによるものであります。

純資産は、10,710,795千円(前連結会計年度比17,154千円増加)となりました。主な要因はその他有価証券差額金で11,529千円減少しましたが、利益剰余金で28,683千円増加したことによるものであります。

### 2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は投資活動によるキャッシュ・フローで445,380千円減少したものの、営業活動によるキャッシュ・フローで383,260千円、財務活動によるキャッシュ・フローで67,736千円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べ5,616千円増加し、288,214千円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、383,260千円増加(前連結会計年度に比べ518,139千円減少)となりました。

これは主に、法人税等の支払額により218,588千円資金が減少したものの、税金等調整前当期純利益により230,749千円、減価償却費により427,906千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、445,380千円減少(前連結会計年度に比べ35,732千円減少)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出で439,315千円、資金が減少したためであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、67,736千円増加(前連結会計年度に比べ550,502千円増加)となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出により1,672,717千円資金が減少したものの、長期借入れによる収入により2,198,000千円資金が増加したためであります。

## (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきましては、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の使途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき5円となる予定であり、中間配当金3円を含めると年間配当金は1株につき8円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を4円、期末配当金を5円の年間配当金9円を予定しております。

## 2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.25%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

### <遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内3店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内5店舗、園内売店の内2店舗、園内施設のうち2施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。

### <ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

### <ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業務等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

### <不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

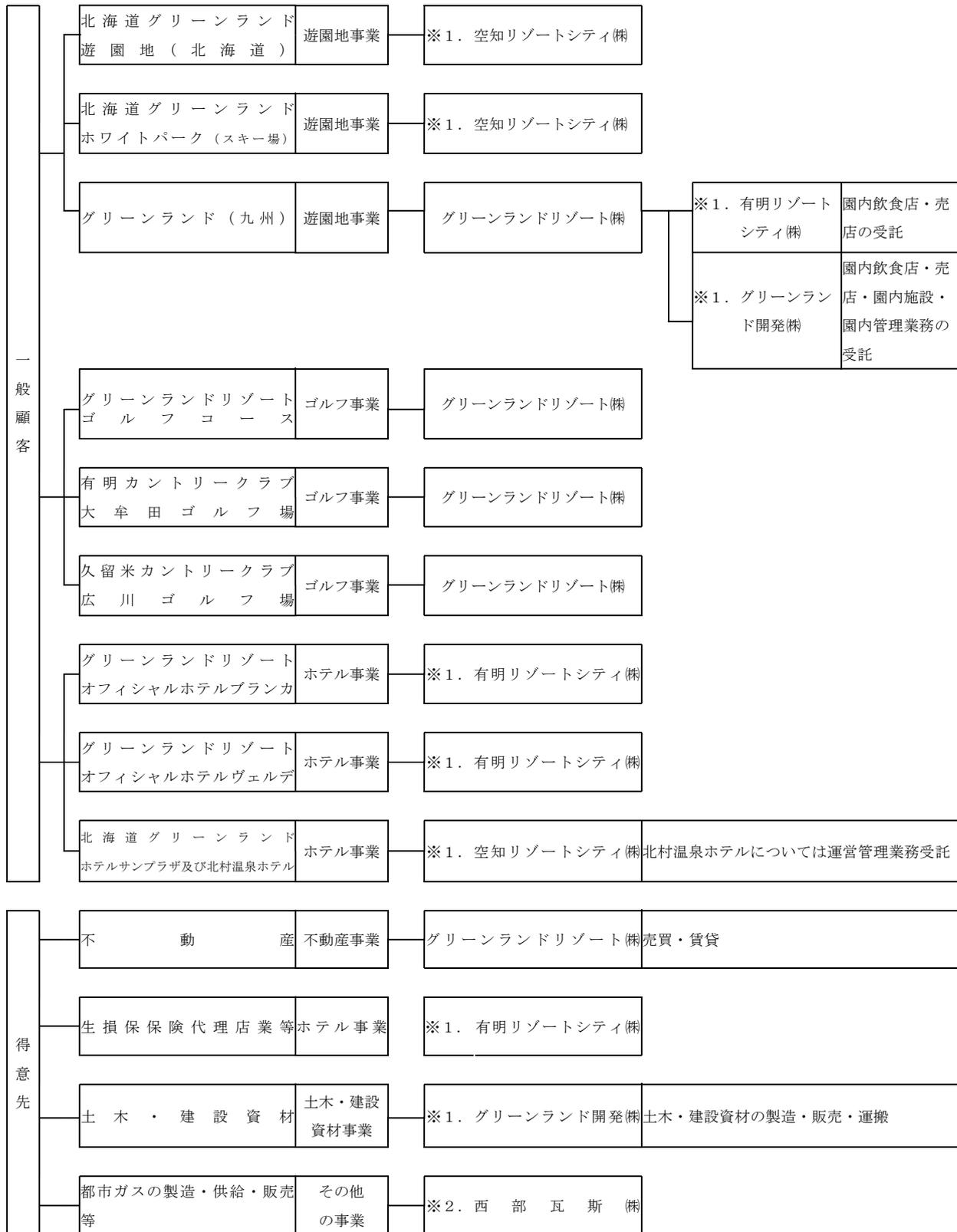
### <土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

### <その他の事業>

都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。
----------------	----------------------------------

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社  
 ※2. その他の関係会社

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

創業以来現在まで、たゆまぬ創造・革新によってお客様に常に満足を提供することを心がけてまいりました。これからも企業理念のキャッチコピーである「ココロを『みどり』でいっぱい。」を合言葉に、各事業におきまして、お客様に夢や感動を提供することを最重要課題と位置付け、スタッフ一人一人が、いかなる状況の変化にも対応し、その状況を突破するための柔軟な発想と実行力を持つことに重点を置き、新しい付加価値を次々と創出していくことで、当社グループ事業の「強み」に磨きをかけ、日々変化する顧客ニーズや消費動向に対応するとともに、当社グループ事業の競争力を高めることで業績向上に努めてまいります。

また、企業として利益の確保に向けた経営を進めていくことはもちろんのこと、社会的責任を自覚の上、法令の遵守や倫理に則った企業活動を実践し、地域発展への貢献にも努め、すべてのステークホルダーから「信頼」される企業を目指してまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

目まぐるしく変化する消費動向に対応し、常に変化し続ける営業体制作りを心がけ、様々な商品やサービスの提供に努めて集客を図り売上増加を目指すとともに、現状分析及び関連設備の全面的な見直しを行い、無駄な経費の削減に努めてまいります。

このため、売上高経常利益率の向上を目標としております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

集客事業を柱とする当社グループでは、多彩なイベントの開催・季節に応じたキャンペーンの造成・昨今増加しつつある女性層や若年層に的を絞った戦略・さらには海外からのお客様に向けた制度を最大限に活かした営業展開や商品の販売強化に引き続き取り組み、さらなる集客を図ります。

また、外部環境に柔軟に対応可能な組織変更やグループ再編による各事業の効率化の実現を目指してまいります。

#### (4) 会社の対処すべき課題

レジャー産業を取り巻く社会環境は、刻々と変化を続け、消費動向や顧客ニーズはさらに多様化し、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、当社グループとしましては、企業理念である「夢や感動を与える企業」を目指し、お客様一人一人と向き合い、子どもたちに夢を与え、また、多くのお客様に感動をお届けできるような魅力ある施設作りや、真心を込めたサービスの追求に努めていくことで、一人でも多くのお客様にご利用いただき、さらなるリピーターの獲得に取り組み、業績向上に努めてまいります。

また、これまでも増して、遊園地の安全面について万全の体制を敷き、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設の点検整備並びに園内環境整備の取り組みを基本とし、さらには、園内において様々な空間演出に力を入れ、賑やかさを創り出し、お客様により一層の楽しさを提供してまいります。

### 4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

## 5. 連結財務諸表

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当連結会計年度 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	282,597	288,214
受取手形及び売掛金	190,647	202,507
商品及び製品	39,748	37,590
原材料及び貯蔵品	60,443	57,403
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	18,386	15,364
その他	83,888	75,272
貸倒引当金	△3,704	△3,782
流動資産合計	679,138	679,699
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,433,953	13,565,555
減価償却累計額	△9,222,217	△9,456,944
建物及び構築物 (純額)	4,211,735	4,108,610
機械装置及び運搬具	3,506,481	3,523,646
減価償却累計額	△2,899,557	△2,902,412
機械装置及び運搬具 (純額)	606,924	621,234
土地	15,065,615	15,062,040
リース資産	133,799	120,099
減価償却累計額	△47,128	△50,444
リース資産 (純額)	86,670	69,655
建設仮勘定	—	6,600
その他	1,101,930	1,104,079
減価償却累計額	△992,302	△974,261
その他 (純額)	109,627	129,817
有形固定資産合計	20,080,573	19,997,958
無形固定資産		
その他	227,276	234,105
無形固定資産合計	227,276	234,105
投資その他の資産		
投資有価証券	357,113	337,788
繰延税金資産	302,944	303,979
退職給付に係る資産	101,602	121,403
その他	69,129	64,986
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	829,689	827,058
固定資産合計	21,137,539	21,059,122
資産合計	21,816,678	21,738,821

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当連結会計年度 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	94,270	98,628
営業未払金	103,916	120,698
短期借入金	3,649,500	3,356,932
リース債務	23,424	21,257
未払金	384,251	255,643
未払法人税等	141,593	4,835
その他	164,968	135,657
流動負債合計	4,561,924	3,993,651
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	3,218,138	3,809,989
長期預り金	3,007,442	2,909,042
リース債務	42,025	21,735
繰延税金負債	55,225	54,910
退職給付に係る負債	7,543	8,938
その他	130,738	129,758
固定負債合計	6,561,112	7,034,374
負債合計	11,123,037	11,028,025
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,660,530	1,689,214
自己株式	△3,033	△3,033
株主資本合計	10,605,432	10,634,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	88,208	76,679
その他の包括利益累計額合計	88,208	76,679
純資産合計	10,693,641	10,710,795
負債純資産合計	21,816,678	21,738,821

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
売上高	7,941,951	7,061,241
売上原価	6,841,304	6,217,816
売上総利益	1,100,647	843,425
販売費及び一般管理費	602,091	586,019
営業利益	498,555	257,405
営業外収益		
受取利息	30	18
受取配当金	6,053	6,345
受取賃貸料	3,290	4,154
受取保険金	6,496	10,670
助成金収入	10,642	-
雑収入	7,855	8,966
営業外収益合計	34,369	30,155
営業外費用		
支払利息	61,260	54,796
雑損失	1,642	2,165
営業外費用合計	62,903	56,962
経常利益	470,021	230,598
特別利益		
固定資産売却益	2,787	7,840
固定資産受贈益	32,000	-
受取保険金	-	7,538
特別利益合計	34,787	15,378
特別損失		
固定資産除売却損	6,334	4,366
固定資産圧縮損	-	7,010
投資有価証券売却損	-	125
減損損失	40,472	3,725
特別損失合計	46,807	15,227
税金等調整前当期純利益	458,001	230,749
法人税、住民税及び事業税	184,295	79,111
法人税等調整額	△6,891	9,242
法人税等合計	177,404	88,354
当期純利益	280,597	142,395
親会社株主に帰属する当期純利益	280,597	142,395

## (連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
当期純利益	280,597	142,395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	35,215	△11,529
その他の包括利益合計	35,215	△11,529
包括利益	315,813	130,866
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	315,813	130,866
非支配株主に係る包括利益	-	-

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自平成27年1月1日 至平成27年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,462,633	△2,992	10,407,576
当期変動額					
剰余金の配当			△82,700		△82,700
親会社株主に帰属する当期純利益			280,597		280,597
自己株式の取得				△40	△40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	197,897	△40	197,856
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,660,530	△3,033	10,605,432

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	52,992	52,992	10,460,569
当期変動額			
剰余金の配当			△82,700
親会社株主に帰属する当期純利益			280,597
自己株式の取得			△40
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	35,215	35,215	35,215
当期変動額合計	35,215	35,215	233,072
当期末残高	88,208	88,208	10,693,641

当連結会計年度（自平成28年1月1日 至平成28年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,660,530	△3,033	10,605,432
当期変動額					
剰余金の配当			△113,711		△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			142,395		142,395
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計			28,683		28,683
当期末残高	4,180,101	4,767,834	1,689,214	△3,033	10,634,116

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	88,208	88,208	10,693,641
当期変動額			
剰余金の配当			△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			142,395
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△11,529	△11,529	△11,529
当期変動額合計	△11,529	△11,529	17,154
当期末残高	76,679	76,679	10,710,795

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	458,001	230,749
減価償却費	414,702	427,906
減損損失	40,472	3,725
固定資産受贈益	△32,000	-
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△3,527	△19,800
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△812	1,395
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△689	78
受取利息及び受取配当金	△6,083	△6,364
支払利息	61,774	55,431
受取保険金	△6,496	△18,208
固定資産売却損益 (△は益)	△2,787	△7,840
固定資産除売却損益 (△は益)	6,334	4,366
売上債権の増減額 (△は増加)	32,867	△17,215
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△21,905	5,198
仕入債務の増減額 (△は減少)	22,668	21,139
未払金の増減額 (△は減少)	12,768	△33,382
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△30,627	△10,671
その他	69,633	2,373
小計	1,014,292	638,883
利息及び配当金の受取額	6,083	6,364
利息の支払額	△61,208	△54,068
保険金の受取額	6,496	10,670
法人税等の支払額	△64,264	△218,588
営業活動によるキャッシュ・フロー	901,400	383,260
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△412,068	△439,315
有形固定資産の売却による収入	3,062	7,896
無形固定資産の取得による支出	△1,300	△14,063
貸付金の回収による収入	400	-
投資有価証券の売却による収入	-	112
その他	257	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△409,647	△445,380
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△35,000	△226,000
社債の発行による収入	100,000	-
長期借入れによる収入	1,180,000	2,198,000
長期借入金の返済による支出	△1,516,544	△1,672,717
長期預り金の受入による収入	2,200	-
長期預り金の返還による支出	△111,349	△98,400
リース債務の返済による支出	△19,093	△19,640
自己株式の取得による支出	△40	-
配当金の支払額	△82,937	△113,506
財務活動によるキャッシュ・フロー	△482,765	67,736
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	8,987	5,616
現金及び現金同等物の期首残高	273,610	282,597
現金及び現金同等物の期末残高	282,597	288,214

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を当連結連結会計年度から適用し、当期純利益等の表示の変更を行っております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト						調整額 (注) 1	連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建 設 資 材 事 業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,228,009	1,081,820	2,272,917	150,557	208,646	7,941,951	-	7,941,951
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,400	11,326	26,657	9,350	10,411	62,147	△62,147	-
計	4,232,410	1,093,146	2,299,575	159,908	219,058	8,004,099	△62,147	7,941,951
セグメント利益	522,551	67,182	104,807	92,701	20,026	807,268	△308,713	498,555
その他の項目								
減価償却費	181,351	57,236	138,268	17,684	15,347	409,888	4,813	414,702

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△308,575千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度（自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日）

（単位：千円）

	報 告 セ グ メ ン ト						調整額 (注) 1	連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土 木 ・ 建 設 資 材 事 業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,557,942	995,944	2,121,865	149,161	236,326	7,061,241	-	7,061,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,371	10,867	25,710	11,351	8,882	61,183	△61,183	-
計	3,562,314	1,006,812	2,147,576	160,512	245,209	7,122,424	△61,183	7,061,241
セグメント利益	365,243	26,743	56,512	93,469	26,804	568,773	△311,368	257,405
その他の項目								
減価償却費	199,693	61,363	134,701	14,100	13,245	423,104	4,802	427,906

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△312,767千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
1株当たり純資産額	1,034.46円	1,036.12円
1株当たり当期純利益金額	27.14円	13.77円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年1月1日 至 平成28年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益（千円）	280,597	142,395
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期 純利益（千円）	280,597	142,395
期中平均株式数（千株）	10,337	10,337

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 6. その他

### 役員の変動

#### 1. 代表者の変動

該当事項はありません。

#### 2. その他の役員の変動

##### (1) 新任取締役候補

取締役 寺田 尚文 (現 当社経理部長)

取締役 山木 仁 (現 株式会社肥後銀行 取締役常務執行役員)

※山木仁氏は、社外取締役候補であります。

##### (2) 退任予定取締役

取締役 渡邊 和雄 (現 当社取締役施設部担当、有明リゾートシティ株式会社 取締役)

取締役 西本 純一 (現 当社社外取締役、株式会社九州フィナンシャルグループ 執行役員)

#### 3. 就退任予定日

平成29年3月28日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

寺田 尚文 (テラダ タカフミ) 昭和41年7月16日生 50歳  
平成元年 4月 当社入社  
平成20年 1月 当社遊園地事業部次長兼イベント企画宣伝課長  
平成25年 3月 当社営業部長  
平成27年 3月 当社経理部長 (現任)

山木 仁 (ヤマキ ヒトシ) 昭和35年2月6日生 57歳  
昭和57年 4月 株式会社肥後銀行入行  
平成24年 4月 同行事業開発部長兼公務部長  
平成25年 6月 同行執行役員事業開発部長  
平成26年 6月 同行執行役員与信統括部長  
平成27年 6月 同行取締役執行役員与信統括部長  
平成28年 5月 同行取締役常務執行役員 (現任)

グリーンランドリゾート株式会社 役員体制 (平成29年3月28日)

代表取締役社長	江里口俊文《再任》	
常務取締役	重光 敬明《再任》	(空知リゾートシティ株式会社 代表取締役社長) (有明リゾートシティ株式会社 取締役)
常務取締役	松野 隆徳《再任》	(遊園地事業部長兼営業部長 ゴルフ事業部、施設部担当)
取締役	幕 宰《再任》	(不動産事業部長) (有明リゾートシティ株式会社 代表取締役社長)
取締役	田中 宏昌《再任》	(グリーンランド開発株式会社 代表取締役社長)
取締役	寺田 尚文《新任》	(経理部長)
社外取締役	有村 文章《再任》	(西部ガス情報システム株式会社 代表取締役社長)
社外取締役	山木 仁《新任》	(株式会社肥後銀行 取締役常務執行役員)
常勤監査役	北岡 鋭毅《現任》	
社外監査役	中尾 哲郎《現任》	(中尾総合法律事務所所長)
社外監査役	水本 忠敬《現任》	(水本税理士事務所所長)
社外監査役	藤田 直己《現任》	(公認会計士藤田直己事務所所長)

以 上